

平成27年度 第27回新居関跡整備委員会議事録

- 1 日 時 平成28年3月18日（金） 午後1時30分～午後2時50分
- 2 場 所 新居地域センター南小会議室
- 3 出席者 整備委員 渡辺和敏委員 向坂鋼二委員 飯田純男委員
寺田敏幸委員
（欠席委員）箱崎和久委員 牧野盾委員
事務局 切池融（文化課長）松山智次郎（文化財係長）
- 4 議 題 ①平成27年度事業（裏御門設計・芝張り工事）について
②平成28年度事業計画について
③その他
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 無

【開 会】

あいさつ

- ・ 委員長
- ・ 文化課長

【議 題】

1 平成27年度事業について

※事務局より平成27年度事業（裏御門実施設計業務、芝張り工事、啓発用パンフ印刷等）について説明

（委員）先ほどの説明で、裏御門の柱が地面より3尺根入れとあったが、工事はどのように行うのか。

（事務局）江戸期の修復史料によれば、本来の裏御門は掘っ立て式で、柱の寝入れ部分が3尺ということだが、実際の工事は遺構面を保護する必要がある。遺構面は標高1.7mあたりに位置するため、その直上の標高1.9mのところで基礎コンクリートを設置し、金属製の受け口を設け柱を立ち上げる計画である。

（委員長）柱の材種が杉とあるが、腐りやすいのではないか。

（事務局）修復史料にある材種を使用することになる。表面には大御門や尖柵のように渋墨塗りを施すことになるので、幾分防腐剤としての効果があると思う。

（委員）絵図などからすれば裏御門は切妻か寄棟造りが考えられるということだが、切妻造りに決定した理由は何か。

- (事務局) 1月の建築専門部会でも同じような意見があった。そこで検討したところ、絵図の描かれ方からすれば切妻と寄棟をはっきりと区別し描き分けているわけではないこと、また屋根が板材であることから寄棟造りとは考えられないので切妻造りとした。
- (委員) 箱錠とあるが、完成した場合締め切りにするのか、その場合の鍵はどうするのか。
- (事務局) 完成した場合は締め切りにする。鍵は、修復史料に箱錠とあることからその通りに復元するが、実際の締め切りの方法は検討する。
- (委員長) 説明にもあったが釘の本数について、修復史料の通りとすれば釘だらけになる。概算で見積もった数量と考えてよいのではないか。
- (事務局) 建築専門部会でも話題となったが、概算で見積もったのではないかという意見もあった。ただ、史料に記載されているので、釘の長さも含め、出来る限り検討し実際の工事の中で判断していく。
- (委員) 今年度芝張り工事を行ったが、管理はどうするのか。2～3年はこまめに草をとらないと、草が生えてしまう。
- (事務局) 定期的に草をとるようにしていきたい。

2 平成28年度事業計画について

※事務局より平成28年度事業（裏御門復元工事、関所構内消防設備計画策定等）について説明

- (委員長) 裏御門の北側の尖柵は復元しないのか。
- (事務局) 裏御門の北側に続く部分は、一部管理用の柵を設けるが、それ以外は発掘調査の成果や絵図資料に基づき尖柵とする計画である。
- (委員) 消防防災計画の策定のなかで、消火栓の位置についてどう考えているのか。
- (事務局) 現在、現存する面番所を取り囲むように3箇所に消火栓が設置されている。今後、女改之長屋、船会所、土蔵などの建物の復元を計画しており、防火対象区域が広くなることを考え、消火栓やポンプの位置、配管などについて再検討していく。
- (委員) 井戸があるようになっているが。実際あったのか。
- (事務局) 発掘調査でははっきりと井戸とわかる痕跡は見つからなかったが、江戸時代の関所平面図や絵図をみると井戸が描かれているので、実際にあったと考えられることから何らかの形で整備したい。